



Internal Medicine Communications

～自治医科大学内科通信～
2016年1月号

自治医科大学内科通信の読者のみなさんへ

あけましておめでとうございます。

新しい年が始まりました。

自治医大内科通信第8弾、2016年1月号の配信です！

今年はどのような年になるのか楽しみだすなあ。



2015年度の内科通信は今回で終わりです。

最後は内科主任教授の挨拶で締めくくりまひよ。

新年明けましておめでとうございます。本年も自治医科大学内科学講座をよろしくお願ひ致します。

内科学講座では現在、来年度から始まる新内科専門医制度のプログラム整備に全力をあげて取り組んでおります。今春ジュニアレジデント2年目になる皆さんから適応される制度ですが、円滑にプログラムが開始できるよう入念に準備している最中です。まったく新しい制度で専攻医の皆さんも非常に不安だと思っておりますが、以前から地域医療の殿堂として定評のある自治医科大学ですから、地域連携を重視する今回のシステム改変にも十分対応可能だと確信しております。多くの専攻医の方々が自治医科大学の内科学専門医研修プログラムに参加し、更にプログラムに磨きをかけて下さることに期待しております。

内科学講座主任教授 長田太助



前回のオリジナル問題と解説です。できましたかいな？

まずは呼吸器内科からの出題と解説です。

問題：54歳の男性。両側手指の形の変化が気になり来院した。5か月前から咳嗽が出現した。3か月前から朝の手指のこわばりと疼痛とが出現し、近医にて関節リウマチと診断され治療を受けたが改善しなかった。家族も手指の形の変化に気づいている。1か月前からは右胸痛と息切れとが出現している。喫煙20本/日を34年間。呼吸音は右下肺で減弱している。手指の写真を別に示す。

最も考えられるのはどれか。



- a 肺癌
- b COPD
- c 間質性肺炎
- d 肺動静脈瘻
- e 鉄欠乏性貧血

正解 a

解説：

写真はばち指を示している。ばち指をきたす疾患は多岐にわたるが、その中でも呼吸器疾患が占める割合は多く、約8割に及ぶとされている。間質性肺炎、肺癌、慢性膿胸、気管支拡張症、塵肺、肺動静脈奇形は、いずれもばち指をきたす代表的な呼吸器疾患である。一方、COPDではむしろ頻度が少ないのが特徴である。注意すべきは、短期間にばち指の出現が見られた場合である。症例では約3か月の間に新たにばち指の出現がみられている。このような場合には肺癌による肺性肥大性骨関節症を疑い、積極的に検索を行うべきであり正解はaとなる。右胸痛や右下肺の呼吸音が減弱していることから、右下葉原発の肺癌が胸膜・胸壁へ進展したことが考えられる。COPDではばち指の頻度はむしろ少ない。間質性肺炎や肺動静脈瘻では短期間にばち指をきたすことは少ない。

次は今月のオリジナル問題コーナーです。
出題は総合診療内科とアレルギーリウマチ科です。今回は解説、解答つきでっせ。
国家試験頑張っとくなはれ。

まずは総合診療内科からと行きまひよ。

24歳、男性。急性中耳炎のため1週間前から耳鼻咽喉科に通院し、経口抗菌薬治療を受けていた。本日朝から頭痛と発熱があり、うなり声をあげてうずくまっているため家族が救急要請し搬送された。Glasgow Coma Scale E3V2M5、血圧122/58 mmHg、脈拍108/分・整、呼吸数24/分、体温38.7℃。軽度の項部硬直を認めたため血液培養と腰椎穿刺が行われ、経験的抗菌薬治療が開始された。検査室から、髄液グラム染色でグラム陽性双球菌が多数認められると報告があった。

【問題1】

この患者に対して適切な感染予防策はどれか。

- a. 標準予防策
- b. 接触感染予防策
- c. 飛沫感染予防策
- d. 空気感染予防策
- e. 感染予防策の必要はない

【問題2】

この疾患の病原微生物検出・同定後に行うべき対応はどれか。

- a. 全数報告対象の3類感染症であり、ただちに届出を行う。
- b. 全数報告対象の4類感染症であり、ただちに届出を行う。
- c. 全数報告対象の5類感染症であり、7日以内に届出を行う。
- d. 定点報告対象の5類感染症であり、医療機関ごとにとりまとめて報告を行う。
- e. 報告対象感染症ではなく、届出の必要はない。

<解説>

急性中耳炎が先行し、発熱、頭痛、および意識障害の3徴を有する細菌性髄膜炎の症例である。髄液グラム染色結果からは、肺炎球菌が起因菌と考えられる。

【問題1】 正解 a

肺炎球菌性髄膜炎の場合の感染予防策は、標準予防策を実施する。

【問題2】 正解 c

髄液または血液から肺炎球菌が検出された場合は、侵襲性肺炎球菌感染症と診断される。平成25年4月1日に感染症法施行規則が改正され、同疾患は全数報告対象の5類感染症として定められており、診断後7日以内に最寄りの保健所に届け出ることが義務付けられている。

者の状態に合わせた人工呼吸器の設定、栄養管理など、どの科でも必要とされる知識も
得ることができました。また、先生方は優しく、指導も熱心であったため、毎日楽しく
過ごすことができました。皆さんに感謝です！ J1 石渡彰



2015年度内科通信はどないでしたかな？ あっというまでしたな。ほんまにびっくりぼ
んだすなあ。暖冬といわれとるけど、やっぱり寒くなってきましたな。残り少ない時間
を有効に使って、国家試験乗り切ってな！ 乗り切って、乗り切って、合格して、やっぱ
り自治医大にきて研修したいと思ったら、その時は一緒に楽しく仕事しような！

連絡先:

〒329-0498

栃木県下野市薬師寺 自治医科大学
腎臓内科 秋元哲（あきもとてつ）

